

各チームへの感想

福祉チーム

チーム一丸となった素敵な発表だった/自分も参加したり実施してみたいと思った/既に行方に向けて動いていることが素晴らしい/福祉と聞くと高齢者や貧困といったイメージがあったが、「困っている人への手助け」であると気が付いた/このような場に参加する人は既に繋がりを持っている人が多いので参加しやすい工夫が必要

子育てチーム

アンケート調査を実施して実際に子育て世代の声を聞いていて説得力があった/子育てにはベテランの知恵や経験が大事だと思うので、とても素敵なGIFTだと思った/今子育てをしている最中で、本当にこんなGIFTが欲しいと思った/活動を支援できる人もいると思うので、そんな人と支援を受けたい人がうまく繋がると良い

暮らし・生活チーム

難しいテーマをよくまとめたと思う/高校生の冬季間登校は本当に大変なので実現してほしい/空き家ネットワークを利用した移住者の受け入れ態勢を整えることも必要になると思う/情報の集まる場所に資源があつまると思う/以前外国人の方が雪を見て感動しており、自分の中で当たり前になっているものへの魅力と期待を感じた

教育1チーム

「居場所」はとても大切だと思った/子どもを取り巻く環境について考えさせられた/課題に対して真剣に向き合っていると感じた/常識を少し逸脱しながらも現実味のある発表だった/段階が進んで就労支援まで繋がることを期待する/この場を必要とする子に情報をきちんとリーチできるかが今後大切になると思う

教育2チーム

みんなの演技力がなくて驚いた/若い世代も堂々と発表していて良かった/まちなか大学に入学したい/色々な場が教育に繋がっているのだと思った/市民が主役になれる事業で素敵だと思った/未来を担う人づくりは今後の新庄にとって大切なことだと思う/学校外で様々な世代と関わることは良い経験になると思う

産業1チーム

自分も新庄のものづくりを知らないと感じた/アニメが分かりやすく声優陣もお上手でした/工業団地で働く者として開催を楽しみにしている/授業単位でも参加できたら良いと思う/紙芝居の内容をYouTubeにもアップしてみてもどうか/ハプニングもあったがナイスファイト/フェスの内容が複合的で意図しなかった良い効果も生まれそう

産業2チーム

自分が高校生の時にも欲しかったと思うような企画だった/高校生が街中にいると自然と人が集まるまちになると思う/現役高校生の声を実現化されることを期待する/スタディスペース以外の用途も設けてはどうか/企画のネタはよくあるものだが、高校生自らが使いやすいように自らで作っていく過程が大切だと思った

地域づくり1チーム

公民館のイメージをブッコわすおもしろい企画/公民館は実は大きな可能性を秘めた資源だと思った/外国人に宿泊施設として提供する企画がなるほどと思った/公民館の開放は様々な利益を生み出しそう/若い世代が守っていきたくなる公民館のあり方とは何かを深める必要もある/地域の理解を得るための工夫も必要だと思った

地域づくり2チーム

中々思いつかない斬新な発想/実演ビデオが分かりやすかった/楽しみながら災害に備えられて良い/ちょっとバカ要素があって面白い/自分ごと化して市民参加できる企画/地域づくりの導入には最適で今すぐにも取り入れられそう/4世代参加が重要なキーワードだと思った/体の不自由な方も参加できる工夫が必要

生涯学習チーム

おもしろそうな企画/発表を聞いて新庄にはもっと自慢できるものが沢山ありそうだった/イベントの内容をもっと詳しく知りたい/ターゲット設定がおもしろい/単なる人の交流ではなく、方言や料理などの文化を取り入れていて良い/発表者のキャラが良かった/新庄を盛り上げることが学びに繋がると思う

今後の総合計画策定について



新庄市
総合政策課 企画政策室
齋藤正崇

現在このワークショップの開催も含め、新庄市第5次総合計画の策定を行なっています。策定にあたっては総合計画策定委員会という市の職員で構成している会議、外部委員による総合計画審議会、市議会など、様々な形で協議を繰り返しながら策定することになっています。総合計画の素案という形で皆さまにお示しできる形になった段階で、行政と市民での直接対話による「パブリックコメント」を予定しており、ワークショップに参加していただいた皆さまには、是非ご意見をいただきたいと思っておりますので、ご参加をお願いします。また、本日発表頂きました企画の提案内容は総合計画の策定時に制作する冊子にも掲載させて頂く予定です。各チームの市職員も活動をサポートしていたらと思いますので、ぜひ今後もこの活動を継続し、企画の実現へと向かっていけたらと思います！

全体を通して

参加者の感想 (アンケートより抜粋)

新庄の可能性に注目しているチームが多くこのまちにできることはまだまだあると感じた/企画は出来上がったが、あとはこれをどう生かすか/みんな当事者として考えていて良い/これからの展開が楽しみ/グループ発表に至るまでに密なコミュニティができた/

チーム同士コラボできるとより良いものになる気がした/おもしろかった!/幅広い世代と交流できてよかった/少しお金があれば実現できそうなものも多くて良かった/ここまでできたのは市職員の方々の支援のたまものだと思う/みなさんおつかれ様でした!

新庄未来 ワークショップ

2019年9月11日(水) 18:30~21:00
新庄市民プラザ 1階大ホール

Vol.6



プログラム
開会、あいさつ / 各チームからの発表 / 今後の総合計画策定について / 閉会

このワークショップの進め方

新庄未来ワークショップは全6回で構成されており、第2回までは新庄市の現状や将来像を整理し、基本的な方向性(目標)をまとめていきました。第3回からは参加者が興味のあるテーマごとのチームに分かれて、新庄市の資源を活かし、課題を解決していくような具体的なアイデアを創出してきました。

今後のスケジュール

第1回:4月24日(水)
第2回:5月22日(水)
第3回:6月19日(水)
第4回:7月31日(水)
第5回:8月7日(水)
第6回:9月11日(水) 今回!



新庄未来ワークショップの総まとめ これまでの成果を発表しよう！

新庄の魅力や課題、将来像を共有し、
これからの新庄をつくるアイデアを4月から話し合ってきました。
最終回となる今回は、
各テーマごとに分かれたチームからの企画発表です。
どんなおもしろい企画が提案されるのでしょうか？

コメンテーターの紹介



合同会社 moyai
小山弘二



東北芸術工科大学
コミュニティデザイン学科准教授
醍醐孝典



新庄市 副市長
伊藤元昭



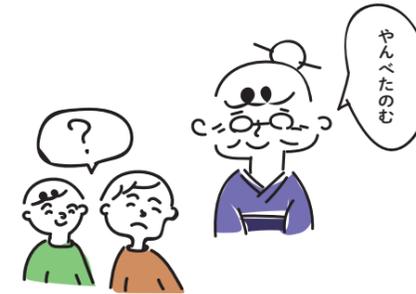
新庄市教育委員会 教育長
高野博

小山弘二：合同会社 moyai コミュニティデザイナー。株式会社 NTT データにて大規模システム開発に携わった後、株式会社 studio-L 会社に参画、各地域の住民参加型まちづくりに携わる。過去のプロジェクト実績に、「長野県白馬村 総合計画・総合戦略策定」「秋田県大湯村 総合計画づくり計画策定」「宮城県気仙沼市 総合計画策定」「新潟県十日町市 十日町市 まちなかステージづくり」「愛知県安城市 中心市街地拠点施設コミュニティデザイン」などがある。

ゲームを通じて新庄の魅力を再発見

企画タイトル Deep 新庄 おつかいチャレンジ 生涯学習チーム

私たちは「地元で自分らしくたのしく生きること」が生涯学習の命題であると考えます。しかし新庄人は「新庄には何もない」と言ってしまうがちです。そこで提案するのが『Deep 新庄おつかいチャレンジ』です。自動車教習所に合宿をしている教習生をターゲットにしたイベントで、新庄弁を読解しておつかいゲームを行います。ゲームを通じた地域外の人との交流を通して、新庄人に新庄の魅力を再発見してもらうことが狙いです。自動車教習所の教習生たちにも新庄をおもしろいと思わせたい、また来たいと思ってもらえるようなきっかけにもなれば良いと考えています。



講評

自動車学校の教習生をターゲットにしたのはおもしろいと思いました。発表の中にもあっだおもしろい」というキーワードを軸に、実現されることを期待しています。
(小山)

定住人口や観光客の増加が難しいと言われる中、注目されるのが「関係人口」の増加です。この企画はまさにそこにアプローチできているものだと思います！
(醍醐)

Team Plofile

五十嵐徹、和泉寛士、海藤芳正、今田翔平、酒匂鶴子、高橋美和、小山知将 (FA)、佐藤ちさと (FA)、長南友紀 (FA)

芋煮会を通じて楽しく福祉の情報交換

企画タイトル おせっかいな芋煮会

福祉チーム

高齢になっても障がいがあっても、新庄で今の暮らしを続けられるような助け合いの輪を広げるきっかけとして、新庄版の芋煮会を開催します。新庄人の良いところは、好奇心が旺盛で仲間意識が高く、良い意味でお節介であることです。その良さを生かし、まずは難しい話は抜きにして、みんなで鍋を囲めば、困っている人と支援できる人の助け合いの輪が段々とでき上がってくるのではないのでしょうか。今後は、まずは福祉チームのメンバーを主体にして開催し、徐々に回数を重ねながら、各地域で開催されるようなムーブメントにしていきたいと考えています。



講評

まずは自分たちを主体に始めようというところがすごく良いですね。あえてテーマを設定することでさまざまな人が参加しやすい可能性もあります。ぜひ試行錯誤しながら回数を重ねて頑張ってください！ (小山)

素晴らしい寸劇でした！目的化しすぎないところがこの企画のポイントです。メンバーの固定化はまちづくりを進める上でよく課題に上がるので、目的を固定化しないオープンな芋煮会に可能性を感じました。(醍醐)

Team Plofile

今田キミ子、佐藤和香、鈴木直、高木知里、早坂佳子、有江徹 (FA)、大泉菜々恵 (FA)、川田健介 (FA)、鈴木博晶 (FA) ※FA: ファシリテーター

全体講評

小山弘二



今日の発表を聞いていて、私自身とても元気をいただきました。みなさんも他のチームの発表を聞くことによって、お互いの考えを改めて共有できたのではないのでしょうか？このワークショップは新庄市の総合計画を策定すること以外にも、市民が交流することで、これからの新庄をつくる人材の関係づくりを行うという意味合いもあります。ぜひこの出会いを大切に、今後の取り組みに繋げてほしいと思います。

私はアドバイザーとして初回から参加させていただいておりますが、新庄市のワークショップは他地域に比べて雰囲気がとても良く、メンバーが途中から増えたりと熱気を感じていました。その理由は今日の発表会を通して「全員参加」で行なっていることだと思います。これは市民と行政の協働が大切になるこれからの時代においてとても重要で、このワークショップを通して新庄市の今後に向けた非常に良い流れができたと思います。今後の策定においても、このワークショップの内容をいかに反映するか事務局のみなさんとも相談していきたいと思っています。

伊藤元昭



市長は常々「まちは誰のものか」と話しています。まちは市民一人一人のもので、市民が求める豊かさを自ら築くものだと思います。そういう意味で今回のワークショップはまちの多種多様な課題を解決するために、年齢や立場を超えた人々が自分たちができることを話し合い解決策を探るという非常に充実した機会だったと思います。これからの策定についても、ぜひメンバーのみなさんにはパブリックコメントなどにもご参加頂きながら、楽しみながら進めていけたらと思っています。

皆さんには本当に今すぐにも実現しなければならないような内容を提案していただきました。私からは教育という視点からコメントさせて頂き、図書館登校について、不登校児の居場所づくりは大事なことです。是非実現に向けてサポートしていけたらと思います。まちなか大学は、一人一人がまちを知り、自らがまちをつくっていくというおもしろい取り組みです。今日の発表を聞いて、私自身も何かおもしろいことが出来ないかと考えさせられました。

醍醐孝典



高野博



企画タイトル
公民館 (のイメージ) をブツブツせ!
 地域づくり1チーム

各地域に立派な公民館があるのに、なかなか有効に使用できていない課題を踏まえて、誰でも気軽に使える公民館にしていくため、3つの提案をします。1つめは「完全解放」と題し、地区外の方も有料で使えるような仕組みづくりを行います。2つめは「開国宣言」。観光客の新たな宿泊場所として、安価で滞在できるように場所を目指します。3つめは公民館を「防災基地」と呼ぶことで、公民館という名前から連想する既存のイメージを変えていきます。いずれも重要なのは、これらの利用改善を通して、地域内外の人々との交流を促進できるという点です。今後は区長さん方にも相談しながら進めていけたらと考えています。



講評

衝撃的なネーミングで驚きましたが、おもしろい発表でした。公民館に対するニーズは地域や世代ごとにも変わってくると思うので、その辺りを調査も行うと、よりおもしろい使い方も見えてくるかもしれません。(小山)

新庄は祭り文化を背景に、山車を作れる人も多いようなので、沖縄にある「パーラー公民館」のように移動式の公民館も可能性として考えられそうです。発展的には福祉チームの活動とも連携していける企画だと思います。(醍醐)

Team Profile

伊藤亮太、佐藤京子、菅原健児、高橋真理、高橋隼飛、藤沢周一、伊藤幸枝 (FA)



企画タイトル
備えあれば憂いなし 真冬の防災運動会
 地域づくり2チーム

安全・安心は暮らしの土台として大切です。私たちは「自分たちのまちは自分たちで守る」ことを信念に、「真冬の防災運動会」を開催します。一般的な防災訓練をより楽しく、子どもからお年寄りまで参加してもらうために運動会と掛け合わせました。いつ起こるか分からない災害に備え、新庄で一番過酷な真冬に開催し、「土のう積みリレー」や「カンパン食い競争」、「水消火器による的当て」などの競技を通して楽しく防災を学びます。一般的な防災訓練では参加が難しい子連れの親子も参加しやすいような工夫を凝らしながら、4世代参加を目指して、地域の交流を深めるきっかけにもしていきたいです。



講評

幅広い世代の参加という面では、学校単位で開催するのもいいかもしれませんが、そうすれば必然的に親や祖父母の参加も促せます。ぜひ参加の仕組みづくりも楽しみながら頑張してほしいと思います! (小山)

発表に実験的な映像があり、とても分かりやすかったです。大切なのは、競技を「大人が真剣にやる」ということです。そんなおもしろい映像を発信できれば全国的にも話題になっていくのではないのでしょうか。(醍醐)

Team Profile

岸謙嗣、笹原啓一、林房俊、山科春美、渡部高夫、小野大地 (FA)、齋藤正崇 (FA)



講評

アンケート調査なども行なっていて、すごく現実的な提案だと思います。モノコトのプレゼントを通して得られる人との繋がりなどが、新庄の子育ての課題を解決していくのではないかと思います。(小山)

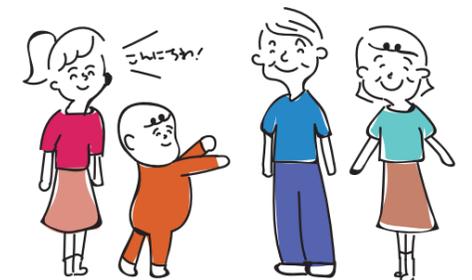
チームの人柄が表れた温かい企画で、人との繋がりを生み出すきっかけとしての GIFT という視点が素晴らしいです。これから生まれてくる子どもたちの為の企画は、総合計画においても大切な視点だと思います。(醍醐)

Team Profile

青柳智洋、小田あけみ、佐藤亜希子、佐藤成美、高橋道子、吉野優美、日塔渉 (FA)

企画タイトル
GIFT が繋ぐ開かれた新庄の子育て
 子育てチーム

ママに偏った子育ての意識を改革し、サポートの充実、地域全体で子育てをサポートしていけるような「GIFT (ギフト)」を提案します。ギフトの中身はすべて地域流通型のコトや体験。市内のお店と連携したサービスの提供やお悩み相談など、子育て世代を支援するコトをギフト券として贈ります。ギフトを通じて地域と子育て家庭の繋がりが生まれ、街中を利用するきっかけにもなり、まち全体の活性化も期待できます。受益者負担もしっかりと検討しながら、ないものをお金をかけて作るのではなく、今ある組織や支援サービスを利用しながら、ギフトが人と人とを繋ぎ、笑顔のあふれる新庄市をつくるきっかけにしていきたいです。



企画タイトル
空き家ネットワーク / 雪国の情報発信 / バスを使ってみよう!
 暮らし・生活チーム

暮らし・生活という幅の広い分野の中で、私たちは3つの視点に絞って企画しました。1つめは「空き家ネットワーク」。空き家の活用を推進するために協議会を設置する取り組みです。2つめは「バスを使ってみよう!」という企画で、冬季間に高校生に向けてスクールバスを運行します。普段利用の少ない高齢者にも働きかけることで、世代間交流にも繋がると考えています。3つめは「雪国の情報発信」です。豪雪地域の代表として、雪に関わる様々な情報を発信していきます。その方法の1つとしては「雪国の暮らし大賞」という雪にまつわるコンテストの開催を考えています。



講評

空き家の活用に関して、今はインバウンドの需要も非常に多いので、長期滞在を希望する外国人に向けて情報を発信するのもいいかもしれません。長野県の白馬村などの事例も参考にします。(小山)

市民レベルの実験活動として、まずは小さな事でも実験的に始めることが大切です。ラボのように、楽しみながら市民ベースの研究所を立ち上げ、小さなイノベーションが生まれるとおもしろいと感じました。(醍醐)

Team Profile

阿部圭祐、奥山将人、奥山美希子、加藤晃一、栗田晃一、三上俊一、小野瞳 (FA)、長沢祐二 (FA)、福澤一行 (FA)

企画タイトル
つながる みつかる あなたのオアシス
教育 1 チーム

学校で生きにくさを抱える10代がりのままに過ごし、社会と繋がる場所として「図書館登校」を提案します。私たちが目指すのは、誰もが社会参加できるまちです。不登校は新庄でも多く存在しますが、それ自体が悪いこととは思いません。新庄市では学校図書館と市立図書館の連携が進んでいます。図書館は、目的なく行くことができ、心を休められ、社会と繋がる場所です。「家でも学校でもないありのままの第3の場所」として、不登校の段階に応じた過ごし方を図書館できるように、まずは関係する団体と共に取り組みを進めていきたいと考えています。



講評

学校や市立図書館はもちろん、新庄の商店街やカフェ、施設にも小さな図書館があると、さまざまな段階の人がより気軽に通うことができ、楽しくなるのではないかと思います。(小山)

不登校や図書館のあり方をはじめ、「常識を疑ってみる」というところがこの企画の良いところです。図書館に関わるメンバーが多かったチームだからこそ、常識を外しながら現実的でもある面白い企画だと思います。(醍醐)

Team Profile

和泉眞理、伊藤洋一、柿崎美穂、叶内凜果、坂本健太郎、高橋一枝、上村亜沙美 (FA)、松原知子 (FA)



企画タイトル
(仮)まちなか大学 共育学部
教育 2 チーム

私たちは学校以外でも学べる場所をつくり、受動的な人が多い新庄に活力あふれる人材を育てることを目標に、「(仮)まちなか大学共育学部」を開校します。キャンパスは空き家や空き店舗をリノベーションしていきます。みんなの「やってみたい」を授業にし、新庄まっぴりの山車作りやお囃子の練習を行う「新庄まっぴりアカデミー」など、新庄ならではの授業を展開したいと考えています。新庄では既に様々な取り組みを行なっている人も多く、そのような人もこの大学を通じて繋がりが持てれば、よりおもしろくなると考えています。運営については運営協議会を立ち上げ、資金はクラウドファンディングも活用したいと考えています。



講評

起業などを目的とした大学ではなく、新庄で何かしたいと思う人が身近なテーマで参加できるという点が良いと思いました。ぜひアカデミーのシリーズを増やし、おもしろい活動にして欲しいと思います。(小山)

同世代同士の学び合いは限界があるので、多世代が交流し、経験や価値観を共有することで得られる学びはとても有意義なものだと思います。市民が学長やゼミなどの役割を持つことにもワクワクしました。(醍醐)

Team Profile

阿部真直、小川光、高橋満里奈、高山恵美子、高山快人、中島諒、長谷川雅幸、加藤明 (FA)、高木丈 (FA)、中嶋祐樹 (FA)

企画タイトル
中二病が世界を救う!
産業 1 チーム

丁寧なものづくりの現場において、真面目で謙虚な人間性の新庄人がつくる工業製品は素晴らしいものがあります。しかしPRが足りず、地元の人も知らない企業が多いのではないのでしょうか。そこで提案するのが「工業団地型新庄ものづくりfes」です。メインターゲットは青春と真ん中の繊細で、夢に向かって輝く中学2年生。中核工業団地に、ものづくりや飲食ブース、工場見学や企業名を入れたトントン相撲の世界大会を行うフェスを開催します。大人になる前に、人生にはさまざまな選択肢があり、新庄にも素晴らしい仕事がたくさんあることを知ってもらい、大人もそれを後押しできるきっかけになればいいなと考えています。



講評

工場を取り上げたイベントは燕市・三条市の取り組みが有名ですが、中学生を巻き込むことも大切だと思います。もし地元を出たとしても、Uターンするきっかけになるとと思います。(小山)

キャリア教育は高校生が盛んですが、中学生から取り入れることが大切ではないかと言われ始めています。ですからこの企画は真に次の時代に求められるものになっていくと思います。(醍醐)

Team Profile

岩井利夫、海藤拓、門脇美里、栗田夏枝、沼澤聡子、武藤法子、押切健 (FA)



企画タイトル
Project S
産業 2 チーム

駅前通りは融雪歩道や明るい街灯もあり、高校生の利用が特に多い通りですが、普段はただ通過しがちです。また、駅を利用する高校生の勉強スペースがないという課題解決と商店街の活性化の一助とすべく、商店街の店舗の一角に勉強ができるようなフリースペースを設ける企画を提案します。商店街の一番の魅力は店主の人柄です。フリースペースを通じて店主と高校生が繋がることで、よりニーズに合った商品の販売や、長い目で見れば後継者問題にもアプローチできるのではないかと考えました。今後は行政もコーディネートを行いながら、まずは試験的にフリースペースの設置を目指していきます。

講評

気仙沼のある商店街では、店舗の一角を高校生のチャレンジショップとして利用する取り組みを行なっています。新庄は奥行きのある店舗が多いようですので、勉強目的以外のニーズにも対応できるのではないのでしょうか。(小山)

ネット販売などが台頭する現代だからこそ、地方の商店街には人と人との繋がりを生み出したり、チャレンジするきっかけとなるような可能性を秘めていると感じる、ワクワクする企画でした。(醍醐)

Team Profile

太田瀬広子、田中玲、鶴沢忍、矢作莉子、柏倉正人 (FA)、齋藤泰良 (FA)

